

京都府流域下水道事業経営審議会第6回財政部会（開催結果）

1 日 時 令和7年11月10日（月） 午後3時 ～ 4時

2 場 所 京都ガーデンパレス「葵の間」
(ZoomによるWeb会議併用)

3 出席者 委 員 西垣部会長、岩崎委員、佐藤委員、藤木委員、吉川委員（全委員出席）
京都府 曾和建設交通部公営企業管理監兼副部長、吉本流域下水道事務所長、
西崎公営企業経営課長、工藤下水道政策課長 他

4 結果概要

- 「京都府流域下水道事業経営戦略」中間見直し（最終案）について
パブリックコメント及び関係市町からの意見への府の回答、並びにこれらを踏まえて
修正した最終案を財政面から審議
- 「第1回下水道管理のあり方検討部会」の開催結果を報告

5 主な意見等

- ・ 老朽化や耐震化については、パブリックコメントで多くの意見が寄せられなかったので府の流域下水道が信頼されているということと受け止める。府の回答には、老朽化や耐震化対策に常日頃から取り組んでいることや今後も取り組んでいくことを追記した方がよい。
- ・ 全国重点調査の結果で、府流域下水道において緊急に対処が必要な管路がなかったことも信頼感につながり、多くの意見が寄せられなかったのではないかと。
- ・ 府流域下水道が公共的な性格を有し、エリアを超えて下流の淀川水系における水道水源の水質保全にも寄与していることを強調して記載したことは重要で評価する。
- ・ 維持管理費などの収益的収支の見通しが変更されているが、最近の物価上昇等の経済環境の動向をしっかりと反映しているので妥当である。今後も経済情勢の変化を適切に財政計画に反映しながら経営を行っていただきたい。
- ・ 中間案と比べると令和7年度の木津川流域の維持管理負担金が減っている理由をお伺いしたい。
(京都府回答)
修繕費に物価上昇率をかける見直しによって全流域で維持管理費が増加したが、木津川流域では維持管理費の算定誤りにより修正し、維持管理費が減少したため、維持管理負担金が減っている。
- ・ 建設負担金の廃止について市町の負担軽減額を示してほしいとの市町意見に対して、府は協議の中で提示すると答えられているが、他の協議項目とセットで議論するという認識でよいのか。
(京都府回答)
そういった要因もあるが、流域毎に事情が異なり、負担額の算定方法が複数あったり、市町毎で損得が出る流域もあるので、市町に誤解を与えないように提示を控えている。

以上